昭和七年六月創刊
廣島女學院報
昭和廿八年十月復刊

広島女学院報
HIROSHIMA JOGAKUIN NEWS

第 196 号　2022年度 春号
学校法人 広島女学院発行
〒732-0063　広島市東区牛田東四丁目13-1

人間を超えた存在に出会う

広島女学院
院長・学長
三谷高康

レオナルド・ダビンチの作品に「受胎告知」と題した名画があります。ある日突然、天使ガブリエルが現れて、「マリアよ、お前は神の子を宿している。」と告げる聖書の話を題材にした作品です。

ガブリエルはヘブライ語で「神の人」という意味ですが、アラビア語ではジブリールと呼ばれ、預言者ムハンマドに『クルアーン』を伝えた極めて重要な天使として登場します。

天使などはおとぎ話に属するものと考える21世紀の私たちとは違い、カトリック教会では「天使学」という学問が、19世紀まで神学の一分野として真剣に研究されていました。

カトリック教会もイスラム教も天使とは神の使信を伝え、神の命令を実行に移す天上の存在として理解され、純粋に精神的であり、従って肉体を持たないので目に見えず、人間の感覚では捉えきれない、そうした属性を持ち人間よりも神に近い存在であると考えられているのです。

神学者アウグスチヌスは、人間が自分を反省できるには自分を超える能力、つまり、自己超越性が必要だと主張しました。自分自身を正しく認識し判断するには、自分よりもより完全なものを基準にして、それに基づいて判断する時にはじめて自らの全体像がはっきりと映し出され、真実の自分を見ることが出来ると考えたのです。ですから、天使のように人間を超える存在を考えることは、人間を正しく認識するうえで避けては通れない道であると力説しました。

先日、あるテレビ番組を見ていましたら、サルからヒトへの進化をテーマにしている類人猿の研究者が、「チンパンジーを現地で長年観察していると、人間のどこが特別なのか疑問が湧いてくる。」というようなことを話していました。人間が猿と変わらない点が強調されると、アウグスチヌスの云う自己理解や或いは人間性の向上の手がかりはどこにあるのか。むしろ、人間と猿が徹底的に相違することを明確にして、そこから人間の進むべき道を考えることを忘れてはいけないと思ったのです。

そもそも類人猿の研究は英国の人類学者ルイス・リーキーが始めました。人類の進化を理解するには霊長類の研究が必要だということで、チンパンジー、オランウータンそしてゴリラの生態研究のために若い研究者を熱帯雨林に派遣しました。その研究者たちは全て若い女性でした。リーキーにはそれが最適だとする根拠がありました。人間に対して警戒を緩めない野生動物に辛抱強く近づき、その行動を逐一もらさず記録できる鋭い観察眼を持っているのは女性研究者の方ではないか。新しい研究分野だけに男性研究者は自分の地位や出世を意識して辺境の地に長くは留まらない、しかし、女性研究者は学問的な野心から自由になり、純粋に研究対象の動物に集中するだろう。困難な研究を継続させるのは女性研究者が最適だ。そう考えたのです。こうして、50年代から60年代にかけて何人かの女性研究者がアフリカやアジアの熱帯雨林へ派遣されました。その中心的存在が「リーキーの天使たち」と呼ばれる三人の女性研究者達でした。オランウータン研究のビルーデ・ガルディガス、チンパンジー研究のジェイン・グドール、そしてゴリラ研究のダイアン・フォッシーです。

彼女たちは科学者でありながら、類人猿と過ごすなかで、そこに生息する生き物の神秘に魅了され、アニミズムとは相違した、人間の認識や理解力を超えた存在に出会ったと異口同音に伝えています。

そして、広島女学院に関係する私達も、人間を超えた存在に神の御旨を見い出す霊性を育まなければなりません。

退職者のご紹介

(2022. 3. 31付)

神野　正喜	大学教授
名城　邦孝	大学准教授
砂野　　唯	大学専任講師
佐藤　茂樹	大学特任教授
桐木　建始	大学特任教授
小野　育雄	大学特任教授
植西　浩一	大学特任教授
PECK Marshall Wayne	大学助教
HOUGHAM Daniel	大学助教
HIGGINBOTHAM George	大学助教
麻尾　順子	大学図書館図書課長
緒形　葉子	大学入試部入試課事務職員
安藤　仁慕	大学実験実習担当
中原　克芳	中高教諭(数学)
森永　裕子	中高特任講師(国語)
佐藤　純子	中高教諭(常勤嘱託教育職員)
羽座　健太	中高教諭(常勤嘱託教育職員)
坪山　菜津子	幼稚園教諭

新任者のご紹介

(2022. 4. 1付)

窪田　勝文	大学特任教授（生活デザイン学科）
出雲　俊江	大学教授（日本文化学科）
細　　恵子	大学准教授（児童教育学科）
中山　貴司	大学准教授（児童教育学科）
近藤　寛子	大学准教授（管理栄養学科）
大崎　美佳	大学専任講師（国際英語学科）
小松　明日佳	大学専任講師（日本文化学科）
山口　大輔	大学専任講師(共通教育部門)
蒲原　靖男	法人事務局・大学管理部長
山本　　寛	大学入試部入試課長
金　　清洛	中高常勤講師（聖書）
谷口　友香	中高常勤講師（数学）
野島　優里花	中高常勤講師（国語）
今井　あい	幼稚園教諭（任期付教員）
山下　　遼	大学実験実習担当 （常勤嘱託職員）
寺内　三未子	大学図書館図書課事務職員 （常勤嘱託職員）
石田　知世	大学入試部入試課事務職員 （常勤嘱託職員）
大森　有香	大学総合学生支援センター 学生課事務職員(常勤嘱託職員)
岸副　鈴菜	大学総合学生支援センター 学生課事務職員(常勤嘱託職員)
王野　里穂	大学キャリアセンター キャリア支援課事務職員 （常勤嘱託職員）

左から順に（敬称略）
１列目）　高田園長、渡辺校長、中川理事長、三谷院長・学長、
　　海田専務理事・法人事務局長
２列目）　窪田、細、大崎、野島、岸副、近藤、山下、田中、蒲原
３列目）　大森、小松、今井、谷口、石田、王野、出雲、山本、古重主事
４列目）　澤村大学宗教委員長、山口、中島、紀村、金、中山、寺内

2022年度運営体制

理事長	中川日出男
院長・学長	三谷　高康
中学高等学校校長	渡辺　信一
幼稚園長	高田　憲治
専務理事兼法人事務局長	海田　智浩

大　学

副学長	田頭　紀和
副学長	小林　文香
人文学部	
人文学部長	渡邊ゆかり
国際英語学科長	磯部祐実子
日本文化学科長	足立　直子
人間生活学部	
人間生活学部長	下岡　里英
生活デザイン学科長	真木　利江
管理栄養学科長	佐藤　　努
児童教育学科長	加藤　美帆
共通教育部門	
共通教育部門長	小林　文香
大学院	
言語文化研究科長	柚木　靖史
人間生活学研究科長	市川　知美

図書館長	三木　幹子
総合研究所長	三木　幹子
大学宗教委員長・宗教センター長	澤村　雅史
障がい学生高等教育支援室長	山下　京子
総合学生支援センター長	小林　文香
入試部長	田頭　紀和
キャリアセンター長	細田みぎわ
エンパワーメントセンター長	細田みぎわ
研究支援・社会連携センター長	入江　直子

中学・高等学校

高等学校教頭	高見　知伸
中学校教頭	渡部　　新
教務部長	山縣　　泉
進路指導部長	久保　光章
広報部長	濵岡由希子
生徒支援部長	川鍋　元広
グローバル教育推進部長	野中　理恵

幼稚園

幼稚園主事	古重　歌織

法　人

歴史資料館長	蒲原　靖男

新任者あいさつ

大学 国際英語学科　大崎 美佳

米国の大学院で外国語教授法を学び、日米両国で外国語教育に携わってまいりました。この度、母校広島女学院大学に戻り、学生の皆さんとの新たな出会い、そして共に学ぶ機会をいただけたことを大変嬉しく思います。学生の皆さんが授業を通して様々な刺激を受け、グローバル社会で活躍するための「英語で伝える力」を身につけるお手伝いができればと願っています。

大学 日本文化学科　小松 明日佳

これまで多くの方々に助けられながら、研究、教育を行ってきました。伝統ある広島女学院の、自然に囲まれたキャンパスで、研究、教育を行えることをありがたく思っております。この度のご縁に感謝し、これからも人と人との関わりを大事にしながら、大学での学びを学生と一緒に考えていければと思っております。御指導、御鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

大学 日本文化学科　出雲 俊江

広島市の高校教諭として勤めるうちに、「自分の言葉」を交わし合う場としての「学校」について考えるようになりました。現在は大正期新教育や綴り方などを研究しています。学校が好きなのだと思います。女性の言葉としての短歌にも関心があります。

美しいキャンパスで小鳥たちの声を聞きつつ、ここで出会う方々の言葉に耳を傾けてゆきたいと思っています。

大学 生活デザイン学科　窪田 勝文

「窪田建築アトリエ」代表の窪田勝文です。

1988年に事務所を設立して以来、国内外さまざまな建築賞を受賞してきました。

建築を通して私も色々学んできた様に、楽しさを伝え学生にも広い視野を持ってもらいたいと考えています。

本年度よりよろしくお願いします。

新任者あいさつ

大学 管理栄養学科　近藤 寛子

はじめまして。私はこれまで福山市の管理栄養士養成課程の大学で、調理科学の教員として勤務してまいりました。このたび御縁があり女学院大学へ赴任しました。まず感動したのは学生の皆さんが礼儀正しく、また明るく生き生きとしており、学科の先生方も教育熱心でチームワークが良いことです。私も大学教員の一員として負けないように頑張りたいと思いますので、よろしくお願いします。

大学 児童教育学科　細　恵子

長年、広島県内の小学校で教員生活を送った後、大阪の私立大学に勤務していました。今後も、学生としっかり関わりながら、学生の良さや可能性を引き出すことができるよう努力をしたいと思います。また、小学校教員の経験を活かし、教員養成に力を入れていきます。学生が、教員として必要な様々な力を身に付けることを目指し、指導方法を工夫していきたいと思います。

大学 児童教育学科　中山 貴司

人間生活学部児童教育学科の中山貴司です。3月まで小学校教員として25年間勤めてきました。4月に入り、子どもたちが側にいないので、寂しく感じることもありました。しかし、人生100年時代の今50歳です。50歳から天文学を学び始め、73歳で亡くなるまで日本中を歩き続けた伊能忠敬を見習い、新しい環境の中で新しい発見、喜び、生きがいを大切にしていきたいと思っています！

大学 共通教育部門　山口 大輔

広島に来て驚いたことが3点あります。1点目はお好み焼きの種類の多さ（広島焼・府中焼き・呉焼き・庄原焼き等）。2点目は、副道からしか入れない店や駐車場の存在。3点目は、女学院大学の学生の穏やかさ素直さ、そして優しさです。前者2点は冗談としても、3点目の驚きは教員として大切にしたい出会いでした。彼女たちがこれから自己実現を果たせるよう、できる限りのことをしていきたいです。

中高 聖書科　金 清洛

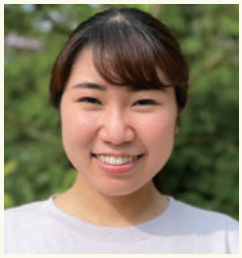
はじめまして。今年度より聖書科を担当させていただく金清洛と申します。聖書科の教員になる前から憧れていた広島女学院へ導かれたこと感謝の他ございません。広島女学院において受け継がれている**「我らは神と共に働くものなり」**という聖句を心に刻み、生徒や学校、そして日本社会から必要とされる教員になることを「志」として、生徒一人ひとりの学びと歩みが豊かになりますように尽力したいと存じます。

中高 数学科　谷口 友香

数学科教員の谷口友香です。私は、広島女学院中高の卒業生でもあります。教師を目指すきっかけをくれた母校に教師として戻るというご縁をいただき、光栄に思っております。お世話になった学校と先生方に、恩返しができるよう精一杯努めます。学びを与えることはもちろん、自分自身も学び続けるという姿勢を忘れず頑張っていこうと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

中高 国語科　野島 優里花

初めまして。今年度より国語科を担当させていただく野島優里花と申します。広島の中でも歴史ある女学院で働くことができること、そして女学院の生徒や教員、職員と出会えたことを嬉しく思っております。私は国語という教科を通して、生徒の価値観を広げる助けとなる教育を目指したいと思います。日々成長できるよう尽力して参りますのでどうぞよろしくお願いいたします。



幼稚園　今井 あい

3月に広島女学院大学を卒業し、この度、母園でもあります広島女学院ゲーンス幼稚園にて働かせていただくこととなりました。豊かな自然の中で、子どもたちの発見や感動の側にいさせていただけることに感謝です。一人ひとりの子どもがありのままの自分で、心とからだをたくさん動かして充実した時間を過ごせるように努力してまいります。

大　学

2021年度卒業証書・学位授与式

副学長　小林 文香

3月15日（火）に卒業証書･学位授与式が執り行われました。新型コロナウイルス感染対策のため、卒業生のみの参加となりました。

三谷高康学長は式辞でマタイへの手紙第5章13節「あなたがたは地の塩である」に触れ、従来の解釈に留まらず、「地の塩」とは周囲の人と考えが違っていても言うべきことを言い、行動すべき時に行動する、そういう人のことを指しているのではないか、本学が掲げる「ぶれない個」とはこうした行動がとれる人のことであり、そのような人が社会や時代の希望になると信じていると卒業生にメッセージを贈られました。

答辞では重久歩優さんが、専門の学びが深まる大学3年生からコロナ禍で制限の多い中で学んだ経験は、未来に虹をかける大切な時間だったと思い返せるように前を向いていきたいと述べました。

357名の卒業生が「ぶれない個」を持ち、力強く歩んでいかれることを願っています。

2022年度入学式

副学長　小林 文香

4月5日（火）に新型コロナウイルス感染対策のもと、3年ぶりに保護者も参加して、入学式が執り行われました。

三谷高康学長は式辞で、ゲーンス先生の人生を紐解き、これから自分が学ぶ広島女学院大学に誇りを持ち、ゲーンス先生のスピリットを受け継いでほしいと述べられました。また、大学時代に倫理観を育て、生涯続く大切な友情を育んでほしいと述べられました。

在学生による歓迎の辞では、田可心さんがこれから始まる大学生としての貴重な時間を自分にとってやりがいのあること、大学でしか経験できないことに費やしてほしいと新入生にメッセージを贈りました。

桜が咲き誇る晴れやかな日に、入学式を無事に迎えられたことを感謝いたします。

広島女学院大学2022年度の取り組み、展望

副学長　田頭 紀和

新年度を迎え、大学の部署や組織も大きく刷新し、新しい目標のもと教職員が一丸となって社会に定着した大学づくりに取り組みたいと考えております。

近年、大学は「何が学べるか」ではなく、「どのように成長させて、どのような人を輩出し、社会に評価されるのか」が強く求められるようになりました。こうした社会的ニーズに即した大学の基盤を作るために、2022年度から「学生の成長」に主眼を置いたキャンパスの改革を行いたいと考えています。2022年度は「成長を実感するキャンパス」「社会と結びつくキャンパス」に変革するために様々な活動を行うことを目指します。

具体的には「成長を実感するキャンパスづくり」として、アクティブラーニングを主軸とした成長を実感できる授業の浸透と情報共有を行うとともに、こうした活動を支援できる設備の改善を計画的に実施したいと考えております。また、教職員と学生の協働による学生活動の活性化、学生の主体的活動の場の創出を行うことで、キャンパスの全てが学生の成長の場となるよう取り組みたいと考えております。

「社会と結びつくキャンパスづくり」として、本学の利点である街への近さを利用した授業や、地域や企業などと提携した授業や活動を行い、社会を学びの場とする機会を創出したいと考えています。また、グローバルな社会と結びついた学びもコロナ禍の影響の軽減とともに再開します。本学の伝統的な強みである国際性については「THE 世界大学ランキング日本版 2022」で国内104位であり、大規模大学がひしめく中、高い評価を受けています。こうした強みをより発展させるため、中国をはじめとした東アジアの大学との提携関係づくりも本年度進めてまいります。

こうしたキャンパスづくりを通して、地域社会の中で信頼され、「広島女学院大学の学生が欲しい」と言っていただける学生を育成して、広島女学院大学のブランドを定着させていきたいと考えております。

2022年度　大学運営体制

大　学

交換留学を再開
—韓国での留学体験談—

国際英語学科　磯部 祐実子

新型コロナウイルス感染症の流行により、2020年度以降海外研修や留学の中止が続いていましたが、2022年度より韓国や米国への交換留学を再開しています。すでにこの2月から、国際英語学科の2名の学生が韓国で留学生活をスタートさせました。それぞれ淑明女子大学校と仁川大学校で留学生活を始め、約2ヶ月が経った現在の様子を紹介します。

「韓国語と英語のスピーキングなどの授業を履修しています。スピーキングの授業では毎授業学生が授業のテーマに沿ってアイデアを出し発表を行います。韓国語の授業ではアメリカ、フランス、ドイツ、ブラジル、マレーシア、台湾、インドネシア出身の学生と一緒に授業を受けています。授業で仲良くなった友達と出かけたりしています。」（国際英語学科4年　黒木麻衣）

黒木さん（左2番目）と淑明女子大学校の学生および先生の皆さん

「成長したと感じることは、教科書の韓国語や英語ではなく実際に日常生活で使う韓国語や英語を使えるようになったことです。また、間違いを恐れず人に話しかけることができるようになったことも成長したと感じています。」（国際英語学科4年　澤田里穂）

1年間の留学で多くのことを学び、チャレンジし、大きく成長して広島女学院大学に戻ってきてくれることを期待しています。

もみじ銀行×アド・カスタム岡本×広島女学院大学
産学金連携に関する覚書締結記念式

管理栄養学科　市川 知美

2022年3月22日(火)に、株式会社もみじ銀行、株式会社アド・カスタム岡本、広島女学院大学の産学金連携に関する覚書締結記念式がもみじ銀行本店で行われました。地域貢献の推進と相互交流を図ることを目的としたこのプロジェクトでは、管理栄養学科の食育サークルの学生たちが因島産の葉物野菜“しまなみリーフ”を使った料理レシピを開発しました。

しまなみリーフは、鮮やかな緑色でシャキシャキとした食感とさわやかな辛味が特徴の野菜です。栄養的にも優れており、レタスに比べて食物繊維や鉄、カリウム、葉酸、ビタミンCなどが多く含まれています。子供から大人まで楽しんでいただけるよう、様々な調理法を取り入れ、全27品のレシピが完成しました。

しまなみリーフプレゼンテーションの様子

参加した食育サークルの学生たち

記念式典では、学生たちがレシピ開発に関するプレゼンテーションを行った後、「シラスとしまなみリーフの餃子ピザ」「しまなみリーフの味噌マヨソース肉巻き」「しまなみリーフのトマト炒め」の試食提供を行いました。もみじ銀行の小田頭取、アド・カスタム岡本の岡本社長、本学の三谷学長から、料理の感想やレシピ考案への激励をいただきました。学生たちからは、どの料理もおいしいと喜んでいただけて良かった、やりがいや達成感を感じたなどの声が聞かれ、久しぶりに生き生きと活動する姿や成長ぶりをみることができました。

2022年度前期主題
「しあわせの扉」について

大学宗教委員長　澤村 雅史

前後期それぞれに掲げるキリスト教主義教育の主題には、宗教委員の先生方（各学科・部門から選出）に学生たちの様子や、今かけてあげたい言葉などをお聞きし、反映させるようにしています。今学期の主題は「しあわせの扉」とし、テサロニケの信徒への手紙　一　5章16～18節を主題聖句として組み合わせました。コロナ禍でのさまざまな制限や不安に縮こまってしまった心の扉を開け、勇気を出して次の一歩を踏み出すことへの励ましを込めています（詳しい解説は大学宗教委員会発行の『チャペルだより』第205号巻頭言をご覧ください）。

学生たちからは感謝なことに、チャペルの感想文で「コロナ禍での緊張や葛藤によって閉ざされた扉を開けて、新しいことにチャレンジしたい」、「感染予防に続けて気を付けながら、少しずつ新しい一歩を踏み出してみたい」といった多くの反応がありました。

ゴスペルに集う教職員

さらに、この主題に呼応するように教職員の中からも嬉しい動きがありました。心と声を合わせて「ゴスペル」で元気になろう！という取り組みです。今は感染対策を徹底しながら練習に励んでいますが、学生聖歌隊（クワイヤ）をセンターに迎えて、オープンキャンパスでの何らかの形での発表を目指しています。女学院関係者どなたでもご参加歓迎です。お問い合わせは宗教センターまで。

大　学

2021年度　退職教員からの一言

ながらへばまたこの頃やしのばれむ

日本文化学科　佐藤 茂樹 名誉教授

楔形文字の粘土板を所有。ヘレンケラーが講演に来た。120年の歴史を要約していて知ったことです。原爆投下後、ようやく、日赤病院に辿りつくも、治療は望めず、皆で讃美歌を合唱した。それを見守っていた人が「ああ、さすがに女学院さんの生徒は違いますね。美しい最期でした」（100年史）の文に胸がつまりました。と同時に誇らしくも思いました。今は、大変な時ですが、「ながらへばまたこの頃やしのばれむ憂しと見し世ぞ今は恋しき」（百人一首　清輔）と思える時が来ます。健康に御留意下さい。

これからも大学とともに

児童教育学科　桐木 建始 名誉教授

広島女学院大学に31年間お世話になりました。その間に、一般教育･教職課程、学際研究プログラム、人間･社会文化学科、幼児教育心理学科、児童教育学科と所属部署は変遷していきましたが、専門とする心理学を通じて多くの学生たち、教職員の方々と出会い、共に活動することで数多くの思い出を残すことができました。

今後も大学との関わりをもちつつ、大学のために力を尽くしたいと考えています。また、沖縄とのつながりをさらに深めていく第二の人生も模索しています。

ともに働かせていただいてきたことへの感謝

生活デザイン学科　小野 育雄 名誉教授

この学院に、この学び舎に、すてきな牛田校地に、そのなかを流れる小川らになにかまずふかく感謝しています。みなさまがこんなわたしを27年間ともに働かせてくださり、まことにありがとうございました。その間、学生らも含むみなさまと、この場所でできるかけがえのない学びの時間を経験してきたような感じです。けものみちのようなところをなりゆきでこのように経てきましたが、これからも荒地のけものみちでなんとか生きて生を味わってまいりたいとおもいます。みなさま、さようなら。お元気で♥

広島ロス

日本文化学科　植西 浩一

カープロス――マツダスタジアムの歓声とあの一体感。広電ロス――白島線の「清水」や「祇園」で、八丁堀に出るのが好きでした。

何よりも、女学院ロス――小川の縁に咲くあざみ、図書館の本棚、チャペルの鐘の音、ステンドグラスから射す陽の光。「願い」と「祈り」、それがある学校。

十年間、本当にありがとうございました。皆様のご健康とご多幸、学院のご発展、平和な世界が戻ることを、奈良の地から祈念いたしております。

43年間の職歴を振り返って

児童教育学科　神野 正喜

2012年4月から今年の3月まで、本学でお世話になりました。43年間の職歴を広島女学院大学で閉じることができたのは私の幸いです。私が気づいていない時や場を含めて多くの先生方や職員の皆様に支えられての10年間でした。その間にゼミ生をはじめ、多くの学生に関わり、懇ろに接する時間をもち得たことは、何物にも代え難い貴い経験として、これからも折に触れ思い出すことでしょう。最後になりましたが、広島女学院大学のますますの発展と教職員の皆様のご多幸をお祈りいたします。

名誉教授称号授与式

2022年4月25日（月）、2022年3月に退職された3名の先生方に名誉教授の称号が授与されました。三谷学長から名誉教授称号授与賞が贈られ、田頭副学長から記念品、小林副学長からは花束が贈られました。

日本文化学科	佐藤茂樹	名誉教授
生活デザイン学科	小野育雄	名誉教授
児童教育学科	桐木建始	名誉教授

（左から）小林副学長、三谷学長、桐木名誉教授、佐藤名誉教授、小野名誉教授、田頭副学長

中学・高校

高校卒業礼拝

校長　渡辺 信一

3月1日に、第74回高等学校卒業礼拝がゲーンスホールで行われました。200名の卒業生が希望を抱き、それぞれに与えられた場に飛び立ちました。

この学年は、コロナ禍の中で高校生活を過ごしました。体育大会・文化祭などの学校行事やクラブ活動も予定されていたものとは大きく変わり、その状況を受け入れるしかない3年間でした。しかし、一人ひとりの生徒の顔は、いつも明るく、広島女学院の一日を大切にしていました。改めて、その姿に感謝したいと思います。

卒業礼拝で、代表の清水優花さんが、卒業生の言葉を述べました。その一部を紹介いたします。

『この6年間では様々なことがありましたが、私の中で一番大きかったのは新体操部での日々です。私の部活生活は苦難の連続でした。それでも、私が経験したすべてのことが今の私を作ってくれたと思っています。』

『そんな泥沼のような状態のまま最高学年となり、私は部長に任命されてしまいました。部長として、自分が部活全体に指示を出そうと思うのに、指示が行き届かず後輩を混乱させてしまうこともありました。そんな時は、自分の視野の狭さを痛感させられ、どんどん自信もなくなりました。そして、その自信のなさが演技にまで出て、下のチームに落とされてしまいました。同級生のいないチームです。私の心はズタズタでした。でも、ここで拗ねていたら何も変わらないと思い、学年の友人たちを参考にすることにしました。いつも明るくて優しい友人たちの姿は、わたしを元気づけてくれていました。私も、チームの中でそのような存在となり、今Bチームにいるという状況をプラスに転じよう。絶対に這い上がろう。そう思い、とにかく下級生たちに笑顔で接することを心掛けました。ふとした瞬間にむなしくなって泣きそうになったけど、そんな時こそ笑う。こうすることによって、いつの間にか忘れていた、新体操が楽しいということを思い出すことができたように思います。そして、自己中心的でプライドだけが高かった私の性格が次第に変わっていったと思います。』

清水さんは、選手としてインターハイ出場を果たします。新体操部の6年間を『同じ目標に向かって、みんなで支えあって、苦楽を共にしたからこそ感じられた幸福感は、私の一生の宝物です。』と言います。

「一人にならない」ことを大切にしながら、「ひとり」から逃げては超えることができないことに挑む。今日も、その一日が与えられています。

第1回探究フェス

探究活動推進委員会　皆本 陽子

教室（スライド発表）

体育館（ポスター発表）

２０２２年3月15日（火）、第1回探究フェスとして、中1から高3まで各学年の代表者による1年間の探究的な活動の発表会を行いました。これまで各学年において、年度末に学びのまとめをする時間は取ってきましたが、全校で行うのは初めての試みでした。

最初にホールで開会式が行われ、中3理科自由研究のスライド発表と高2GI（Global Issues）の生徒による活動報告がありました。その後、高校校舎の教室や体育館で各学年の発表が行われ、生徒は自分の興味ある発表を自由に聴いて回りました。

中学生はPS(Peace Studies)における学びについて、中1は碑めぐり案内のスライド発表、中2は原爆観のポスター発表、そして中3は卒業論文の形で発表しました。また、各学年、理科、社会、国語などの教科における成果発表もありました。高1は自由に研究テーマを決定し、現代社会の授業を中心に情報・英会話・LHRなど教科横断的に取り組んだ研究成果をスライド発表しました。高2・高3では自分の取り組みを発表したいという希望者によるスライド発表が行われました。

生徒は自分より上の学年の発表を聴くことにより、これからの学びへの期待が膨らみ、こんな風に探究すればよいのか、と探究活動の道標を得たようです。また、高校生は中学生の発表から、自分より年下の中学生でも独自の探究をすることができると知り、もっと積極的に今後の学びに取り組もうと自分を奮い立たせるきっかけとなったようです。同じ学校の中に、多種多様なテーマで研究している中高生がいることを知り、生徒そして教員も誇らしい気持ちになりました。学校全体が知のムードに包まれる楽しい機会を、今後も作っていけたらと思います。

中学・高校

中学入学礼拝

中学教頭　渡部　新

4月7日（木）、219名の新入生は、校地間で桜の樹々のアーチを通りながら、入学礼拝を迎えました。

新型コロナウイルス感染拡大防止をしながらの実施でしたが、さまざまなご協力の中、今年度も入学礼拝を守ることができました。

渡辺信一校長からは「様々なことに挑戦する学校生活を送りましょう。そして感動する心を大切にしましょう。」と新入生に向けてお話がありました。パイプオルガンの調べや賛美歌が流れる中、厳かな雰囲気でよいスタートとなりました。

グローバル教育推進部　春の活動

グローバル教育推進部　野中 理恵

例年春休みに実施していました海外研修が、コロナ禍にあり今年も中止となりました。しかしながら、オンラインを活用したり、行先を国内に変更し、海外に行くことができない今だからこそできる活動を実施しました。

1. Global Week

Global　Weekと題し、3月22日から24日まで、中学2年生から高校2年生を対象としたオンラインでのイベントを開催しました。1日目は韓国、2日目はカンボジア、3日目はミャンマーをテーマとし、現地で活動しておられる日本人の方々や学生からお話を伺ったり、各研修に参加した卒業生と座談会を行いました。3日間でのべ約150名の生徒が参加し、実りある時間を過ごしたようです。参加生徒の感想を一部抜粋して紹介します。

「違う国の方と話す機会がコロナ禍によって更に制限されてきた中、このようにオンラインで話し合えるのは、自分の恥ずかしがっている殻を破れて良かった。」（韓国プログラム参加生徒）

「『知識は力』という言葉が本当に心に響きました。知識は盗まれることがなく、一人でも習得するとそれを10倍にも100倍にもできること、日本のものさしの中を生きてきた私にはとても衝撃的な視点でした。」（カンボジアプログラム参加生徒）

「私もこういったことがやりたいんだと強く感じました。泥臭く、日の目を見るようなものではなくても、必ず誰かの役に立っていて、一人ひとりの人間を置き去りにしない、人間らしい温かい活動だと思います。」（ミャンマープログラム参加生徒）

2. Global Issues (GI) 選択生　九州研修

GI選択生は、昨年度に引き続き、例年実施しているハワイ研修旅行に代わり、九州研修旅行（鹿児島県知覧市、熊本県水俣市など）へ行ってきました。ヒロシマと同じく悲しみの記憶を抱える場所を訪れ、たくさんのことを感じ取って帰ってきた生徒たちの感想の一部をご紹介します。

「私達、高3GI生は3月19日～21日に九州研修で鹿児島と熊本を訪れました。1日目は鹿児島の知覧に行き、知覧特攻平和会館を見学しました。会館では、実際に知覧から特攻され戦死された1,036名の方の当時の姿、遺品、遺言書などが展示されていました。特攻に選ばれた人の平均年齢は21.6歳と言われており、私達とあまり年齢の変わらない若い青年たちが生きた証を目に焼き付けました。2日目は熊本県に移動し、水俣病について学びました。実際に水俣病の原因物質であるメチル水銀を排水していた、チッソの会社前を訪れたり、以前チッソで働いていた山下さんと、水俣学を研究されている宮北センター長の講演を聞き水俣病の差別の実態や問題点などを学びました。最終日は熊本地震で崩壊してしまった橋を見たり、熊本城を訪れました。未だに地震の爪痕が多く残っており、当時の情景をまざまざと感じました。

この3日間の研修の中で特に印象に残っているのは、出撃前に17歳と18歳の隊員たちが子犬と笑顔で遊ぶ写真です。もうすぐ、死ぬことが決まっている中であんなにも穏やかな笑顔を浮かべることができることに衝撃を受けました。私達とほとんど年齢が変わらない人たちばかりなのにどうして、死を目前としてあんなにも穏やかな顔をできるのか私には理解できませんでした。きっとやり残したこと、これからやりたいことだっていっぱいあったはずなのに、それをすべて諦めなければならないのに、生きることができないのにどうしてあんなに優しい顔を浮かべることができるのでしょうか、私はひどく胸が痛みました。こんなにも多くの若い人たちが死を覚悟しなければならなかった過去の上に私達の今の生活があることを決して忘れてはいけないと思いました。

水俣にて（今なお流出する有害物質）

コロナ禍でなかなか現地に行って学ぶということが難しい中で、こうして現地を自分たちの足で訪れることができ本当に良かったです。実際に現地に訪れ、自分の目で自分の肌で感じるものはたくさんあり、教室の中では学べないことがたくさんありました。今回の貴重な経験を通して学んだことを今後の生活の中で生かしていけるようにしたいと思いました。」

（高校3年生　中村 心美）

中学・高校

高3 沖縄修学旅行

高校3年生旅行係　中野 孝視

高校3年生は4月4日～7日の３泊４日で待ちに待った沖縄修学旅行に行って来ました。元々この修学旅行は10月に実施される予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により、6ヶ月遅れての実施となりました。晴天に恵まれとても有意義な4日間でした。

以下、生徒旅行委員長の感想を紹介します。

4月4日、みんな大きなスーツケースを持って出発。広島は少し肌寒かったですが、沖縄に到着すると飛行機の中からすでに暖かく、ワクワクが止まりませんでした。1日目は、まず「チビチリガマ」に行き、その後宿泊先のホテルにて比嘉涼子さんの講演会がありました。そこでは、チビチリガマから学ぶ沖縄戦のお話や、沖縄の基地問題など、現在世界で戦争が起きている中、平和について学ばせて頂いているというありがたみを強く感じることができました。

2日目は、平和祈念資料館、ひめゆりの塔・資料館を訪れ、実際にアブチラガマに入り、選択別フィールドワーク等、かなりハードなスケジュールでした。特にアブチラガマに入ったことはかなりの衝撃でした。戦火の中、暗闇で生きていくことの過酷さ、太陽の光を見つけたときの安堵感など、普通に生活していたら感じることのない貴重な経験ができました。

そして3日目は、待ちに待った美ら海水族館。かわいいジンベイザメのじんた君やマナティー、イルカショーなどたくさんの癒やしをもらいました。また、水族館から見える絶景、水平線が広がる真っ青な海、改めて沖縄の海は「きれいだなあ」と感じさせられました。その後は体験学習（シーカヤックやシュノーケリングなどのマリンスポーツ、サトウキビ収穫体験やキャンドルづくり等）、みんな本当に楽しそうでした。

そして最終日。ホテルから見える絶景ともお別れをし、那覇市内にある国際通りに向かいました。昼食後の自由行動では、沢山お土産を買ったり、ブルーシールアイスを食べたり、最後に最高の思い出を作ることができました。

平和祈念公園にて

平和祈念公園平和の碑にて

直前まで本当に沖縄に行けるのかという不安を抱えながら待ちわびていた修学旅行でした。実施できたことに感謝の気持ちでいっぱいです。関わってくださったすべての先生方、旅行会社の皆さん、カメラマンの方、本当にありがとうございました。

（高校3年生旅行委員長　出雲 香乃）

中学3年生 遠足

中学3年学年主任　中 麻奈美

2022年3月8日、中学３年生は長崎研修旅行代替行事の遠足として大阪のユニバーサルスタジオジャパンに行きました。晴天にも恵まれ、午前11時には元気な生徒たちが園内に放たれていきました。お目当てのアトラクションにまっしぐらで、午後にはおみやげを手にしてごきげんの生徒たちをたくさん目にしました。先生たちは人の多さにぐったりして、本部でのんびりしていました。

今回、長崎研修旅行の「深い」学びは体験できませんでしたが、中1春の合宿以来「近隣遠足の達人」になっていた中3生が、卒業前、新幹線に乗って笑いあふれる旅をすることができたことは本当によかったと思っています。コロナ感染が懸念される時期でもあり、保護者をはじめ関係の先生方にはご心配をおかけしましたが、生徒たちの祈りと自覚によって無事に遠足を終えることができました。学年会をあげて、みなさまに感謝いたします。

退職にあたって

数学科　中原 克芳

退職にあたり、これからも一層女学院の教育が充実することを祈って作成した覆面算をお届けします。

（1）同じ文字には同じ数字、異なる文字には異なる数字を入れる、
（2）最上位の文字には0を入れない、
の２つの規則で計算式が成り立つように、数式に置き換えてください。

```
    のびやかに
     しなやか
＋)        に
―――――――――
 女学院の学び
```

答えは次項です。

中学・高校

マウントユニオン大学と広島女学院中高

高校教頭　高見 知伸

1952年（昭和27年）、ひとりの卒業生が米国オハイオ州アライアンス市にあるマウントユニオン大学（当時はMount Union College、現在はUniversity of Mount Union）に留学しました。これが同大学と本校のつながりの始まりでした。当時はまだ女性の大学進学率が15%に満たない時代でしたが、志をもってアメリカの大学に進学した卒業生・村上芳野さんは学業に励むだけでなく、クワイヤの一員としてコミュニティーでも愛される存在でした。優秀な成績で卒業しながら夭逝した彼女を記念し、マウントユニオン大学が4年に一度、4年間の全学費を支給する「村上芳野奨学金」制度を設けてくださいました。以来、一度も途切れることなく、現在13人目の奨学生が彼の地で学んでいます。

両校の架け橋としてご尽力頂いた同大学の元職員ハロルド・ホール氏が昨年お亡くなりになりました。公私にわたって両校を支えてくださった氏を偲び、本校卒業生で3人目の村上スカラーである大藪マティス直子さんに特別寄稿をお寄せいただきました。70年間の両校の絆に思いを馳せながらお読み頂ければと思います。

特別寄稿

日米2校間の絆 ～Mr. Harold Hall（ハロルド・ホール氏）を偲んで～

高28回生　大藪 マティス直子 マウントユニオン大学教授

2021年12月4日にアメリカ・オハイオ州でハロルド・ホール氏が95年の生涯を閉じられました。ホール氏は40年近くの間、広島女学院にとってかけがえの無い存在でした。ホール氏のおかげで、広島女学院とマウントユニオン大学との70年に渡る絆が更に強くなったと言っても過言ではないと思います。

ホール氏は、マウントユニオン大学卒業、大学院で教育学の修士号を取得後、公立学校で教員、校長、教育長などを務められ、教育畑一筋を歩まれた教育者でした。ホール氏は30余年の公立学校でのキャリアを退いた後、母校マウントユニオンに戻り、国際交流部門の創設に携わられました。ホール氏が「国際交流」に非常に興味をもたれ、当大学に初の国際交流部門を設立されるに至った背景には、1985年に大学の代表者として初めて広島女学院を訪れた事があります。ホール氏はキリスト教を土台に、平和教育を大切にする我が校で献身的に学ぶ女学院生達に深く心を打たれたばかりでなく、その時初めて村上芳野奨学金の詳しい背景を知り、2校の絆の歴史とその重要性に気づかれたのです。それ以来40年近くの間、ホール氏は何度も女学院を訪れ、両校の交流に貢献されました。

ここでホール氏のご功績を簡単にご紹介したいと思います。ホール氏はマウントユニオン大学に進学してくる広島女学院の卒業生ひとり一人を歓迎して下さり、奥様のアリス・アンさんと共に親代わりとなって4年間の学生生活を絶えず支えてくださいました。キャンパス内だけでなく、アメリカでの生活や文化に早く馴染めるよう、地元の人々と交流する様々な機会も作って下さいました。村上芳野奨学生、そして2007年にホール氏の働きかけで設立された「黒瀬平和賞奨学金」の受賞者を含む計15名はいずれも優秀な成績を修め、大学内だけでなく、アライアンス市民に日本文化そして広島の平和を願う心を伝える伝統をつないでいます。

2010年には女学院中高の在学生を対象とした春期短期研修がマウントユニオン大学で始まり、今までの10年間で合計約100人の女学院生がこの研修に参加し、マウントユニオンを訪れています。約1週間の研修中に、女学院生たちは大学のクラスに参加したり、キャンパスライフを垣間見たり、ホストファミリーを通じてアメリカの家族生活や文化を体験します。それだけに留まらず、大学、地域の小中高校や市民の皆さんを対象に日本文化のみならず、広島の原爆被害や平和活動に関するプレゼンテーションも行います。このプログラムが発足し、成功したのもホール氏が2校の架け橋となって企画を全面的に支援して下さったおかげです。

2015年には女学院とマウントユニオンの間で盟約書を交わし、2校間の交流を更に強めて行くことを確認しました。これもホール氏が地道な活動を続けて下さった成果です。

世界平和を願いながら短い生涯を閉じられた卒業生・村上芳野さんの灯火を絶やさないように、広島女学院とマウントユニオン大学の絆を40年近く守り続けて下さったホール氏に感謝の気持ちを込め、ここに哀悼の意を表したいと思います。これからは残された私達が日米両校間の絆を守り続けて行かなければならないと深く感じております。

2015年、2校間における盟約書に署名される
Dr. Richard F. Giese（ギーシー学長）（当時）。
後列左から、大藪、卒業生の前川えりさん、折出悠貴さん、ハロルド・ホール氏

退職にあたって中原先生の答え　95274+8627+4=103905

幼稚園

Love & Peace Week

教諭　島 有里咲

聖バレンタインデイを迎える2月第2週は、幼稚園でのLove & Peace Week。子どもたちは各クラスでそれぞれに愛と平和について考え、表現することを楽しみ、それを身近な人に向けて発信する活動を持ちました。みんなが仲良しでいること、世界中の人が笑顔になれること、友だちと一緒に遊んで美味しいものを食べることなど子どもたちは沢山の愛と平和を思い浮かべ、劇をしたり、大きな紙に思い思いに絵を描いたりしました。また、年長児は原子爆弾の怖さ、被爆された佐々木禎子さんのこと、そして戦争が如何に恐ろしいかを学びました。3月には平和公園に訪れ、夏休みの間に一人一人が心を込めて折った折り鶴を捧げました。子どもたちの心の中には、確かで温かい平和への願いがあることを感じます。

今、世界では痛みや苦しみの中におられる方々がたくさんいます。人はそれぞれに考え方が違っており、私たちの生きる世界が「争いが一つもない平和な世界」となることは簡単ではないのかもしれませんし、争いが一つもないことが平和なこととも限りません。争っても互いを認め合い、許し合う心を持てるよう、平和を願う心を忘れずに子どもたちと一緒にこれからの日々を大切にしながら過ごしていきたいと思います。

幸せいっぱいの絵

平和を祈る子どもたち

実りと恵みをわかちあって

教諭　柳田 皓佑

感染状況の悪化に伴い、一か月半遅れの２月下旬に、様々な配慮の中、おこなった餅つき。

遡ること4月、年長児が園庭にある２坪ほどの田んぼを起こしたところから始まりました。白米ともち米の苗を植え、秋の稲刈りではお米が実ったことを神様に感謝してみんなで喜び合いました。そこからの籾摺りや脱穀は、「一粒のお米にこんなに労力が注がれているんだね」ということを分かち合う恵みの時でした。そのもち米を、薪を燃料にしたかまどのセイロで蒸し、重たい石臼の中に移しました。順番に重たい杵を一生懸命に振り下ろす年長児。年中少児は周りで手拍子や掛け声で参加し、みんなで心を1つにしてお餅をつきました。ホカホカと湯気の立つ、つきたてのお餅をみんなで確認してみると「おー」や「おいしそう！」という言葉がたくさん飛び交いました。

おもちがちゃんとできるかな?

桃の節句が近いことから菱餅にして各クラスに飾りました。

次年度こそは食べることができるお餅をつけますように。

2021年度 第60回 卒園礼拝

教諭　久保木 裕子

桜の蕾も膨らみ、園庭の木々の芽吹きに穏やかな春を感じながら3月17日、今年度も感謝をもって卒園礼拝を守ることができました。神様のお守りの中で、心も身体も豊かに成長した72名の卒園生が園を巣立ち、喜びあふれる日となりました。礼拝の中で、子どもたちは園長から一人ひとりに授与された修了証書を、ありがとうの気持ちと共に保護者へ手渡します。その姿は誇らしく、また少し照れたりもして、皆がとても心あたたまる空気に包まれていました。これまで多くの方々に支えられましたこと感謝いたします。園での様々なたくさんの出会いや出来事が、これからの歩みの糧となりますようお祈りしています。

ありがとう!

幼稚園

2022年度を迎えて～ともに育ち合うあゆみ

主事　古重 歌織

新入、転入の園児68名を迎え、進級児と共に2022年度のスタートの時を与えられ保護者の皆様のお支えの中子どもたちと共に園生活をつくりだす日々を送らせていただいています。新たな環境での生活は刺激も多く、目につくもの目で肌で感じたことを一度にそしてすべてを体に取り込もうとしているかのようにさえ感じる姿があらゆる場面で見受けられます。特に年少組の子どもたちにとっては誕生から現在に至るまでの大半の時間をコロナ禍で様々な制限がかかった中、新たな出会いや集いの機会を奪われて過ごしてきたことと思います。側に寄り添う保護者の皆様の子育てのご苦労も多かったことと想像いたします。でも、子どもたちはどのような状況の中でも豊かさを蓄えようとする能力に長けていると感じています。その能力を我々大人は最大限生かせるよう支え、また共に成長させていただきたいと思っています。私たちに与えられた今目の前にある生活に神様はどのようなメッセージを送って下さっているのか、あらゆる出来事にどのような意味があるのか、一つひとつ丁寧に向き合いながら歩んでまいります。子どもたちにつながるご家族、地域の方々、近くで支えて下さる存在、また遠く離れた地で過ごす人々やその地で起きている事象、出来事に思いを馳せて祈り、学び合い・育ち合いの生活を大切にしてまいります。

新緑の季節を迎える園庭で

藍の種まき

教諭　梅田 桃香

幼稚園では、年長児が染物活動に取り組んでいます。4月、今年度も進級したての年長児が、昨年度の年長児から引き継いだ藍の種まきをしました。活動の際は、染物名人の久保田由里子さんと大山ちはるさんをお迎えして、一緒に楽しんでいます。お二人とも、染物が大好きで大変研究熱心。そして何より、子どもたちとの出会いに心動かしながら、どんな出来事も面白がって下さるような素敵な方々です。一言で染物活動といっても、始めの土作りから、種まき、水やり、植え替え、収穫した葉っぱを使っての染物、来年も染物活動を楽しめるようにと最後の種の収穫まで、多くの工程があります。手間ひまかける工程の中には大変な作業もありますが、名人のお支えの中で、子どもたち、保育者にとっては一つ一つの工程が豊かな時となっており、春に蒔いた種がこれからどう生長していくのか楽しみです。

藍の種ってすごく小さいから、やさしく植えてあげようね。

青空を泳ぐお手製鯉のぼり

教諭　久保木 裕子

春のあたたかな日、進級、入園して間もない子どもたちが園庭に集い、歌をうたいながら園舎の屋根を見上げると大きな鯉のぼりが青空に揚がります。「わぁ！」と歓声が沸くこの光景は毎年、春の恒例イベントとなっています。また、学年やクラスで仲間と一緒に鯉のぼり制作も楽しみます。大きな模造紙に絵の具を使って手形で描いてみたり、鱗を様々な形に色紙や布を切って貼ってみたり、ぼうけんの森でも葉っぱや木の実を使って鱗や目を表現して作ってみました。それぞれ趣向を凝らした手作りの鯉のぼりが毎年出来上がると、園庭の青空から元気に遊ぶ子どもたちを見守ってくれます。

鯉のぼりが揚がる園庭は春の風物詩

大空を悠々と気持ちよさそうに泳ぐ大きな鯉のぼりのように、子どもたちも伸び伸びと健やかに成長しますよう願います。

幼稚園

ゲーンス農園と田んぼ

教諭　古本 紗也

2022年度が始まりました。田植えと芋の苗植えに向けて子どもたちと一緒に準備を進めています。

園内にある田んぼでは主に5歳児が田おこしを行い、田植えを楽しみに待っています。スコップで土を掘り起こし、柔らかい土になったところで田んぼの周りに畔を作りました。

そして、幼稚園の北門近くには保護者の方と共に拓いた畑（ゲーンス農園）もあります。そこでは石ころ拾いや草抜きを行い耕して、芋の苗植えを楽しみに待っています。畑の作業を進めていく中で、日頃から畑を守ってくださっているゲーンス農園サポーターズの保護者の方々との出会いもありました。お母さんたちとの出会いと田植え･苗植えができる恵まれた環境に感謝です。一から頑張って作業した田んぼと畑で作ったお米にお芋。もちろん、今年も餅米も育てる予定です。収穫し、食べるまで楽しみです。おいしく育ちますように。

畑作り、がんばるぞ!

数日かけて行った田おこし

たんぽぽ広場

教諭　辻　祐子

ゲーンス幼稚園では子育て支援事業の一環として、未就園児親子クラス「たんぽぽ広場」を5～9月（8月を除く）まで開催しています。月1回、5グループあります。

たんぽぽ広場では親子で登園し、園のホール、園庭、ぼうけんの森などで楽しく遊びます。歌をうたったり、絵本を読んだりもします。その間に、保護者の方々の日々の子育ての悩みを聞いたり、幼稚園生活の様子をお話ししたりしています。コロナの影響で2021年度はほとんど開催できませんでしたが、2022年度は久しぶりに合わせて80組の親子が参加して下さっています。

核家族化している現代、地域に開かれた幼稚園として限られた時間ですが、これからもその役目を少しでも担うことができればと思っています。

いっしょに遊ぼうね

歴史資料館だより（33）

ウクライナ情勢に胸を痛める日々ですが、歴史資料館には戦争により激動の人生を歩んで来られた故パルチコフ先生の愛用ヴァイオリンが展示されています。このヴァイオリンは、娘のカレリアさんが「父が広島で生きた思い出を残すため」と寄贈されたものです。パルチコフさんのご家族が広島の地で被爆し悲しく辛い体験だったとしても、広島女学校の音楽教師として過ごされた思い出を大切にしてくださった証のヴァイオリンです。このヴァイオリンを眺めると、避けられない悲しさや虚しさに襲われても、日々の楽しく幸せな思い出が生涯の自分を支えてくれるのだなと考えさせられます。

歴史資料館にご来場の際は、お電話にてご予約をお願い致します。

●開館時間／月～金　10時～16時
●お問い合わせ先／法人事務局管理部総務課
TEL：082-228-0386

ウクライナの平和を祈る

宗教センター　澤村 雅史

大学ではウクライナの地で苦しむ人々や国外への避難を余儀なくさせられた人々をおぼえ、3月7日（月）～16日（水）の間に大学宗教委員会として緊急支援募金を行い、期間中に3回の「ウクライナの平和を求める祈りの集い」を対面･オンライン併用で行いました。短期間にもかかわらず145,527円もの篤志が集まり、日本YMCA同盟ウクライナ緊急支援募金へと送金させていただきました。5月上旬に第2次の募金を終え、第3次を検討しているところです。一日も早く平和が訪れ、人々の尊厳が回復され、心の傷が癒えることを願い、祈りと寄り添いを続けたいと思います。

法　人

表　彰

永年勤続者

30年勤続者　柚木　靖史　　中嶋　知子

20年勤続者　保元佳代子　　山岸　由佳

人　事

昇任

足立　直子（大学教授）

佐藤　　努（大学教授）

和田　敏也（法人事務局・大学経営企画部長 兼
法人事務局・大学経営企画部会計・管財課長）

入江　直子（研究支援・社会連携センター長 兼
総合学生支援副センター長 兼
研究支援・社会連携センター事務課長）

阿部　享子（法人事務局経営企画部経営企画課長 兼
大学経営企画部学長室長）

保元佳代子（法人事務局・大学管理部人事課長）

應本真由美（図書館図書課長）

清尾奈津美（法人事務局・大学経営企画部会計・管財課長代理）

任用替え

COLE Benjamin Irving
（中高常勤講師（英語）→中高教諭（英語））

沖田さやか（中高常勤講師（国語）→中高教諭（国語））

白濱　翔太（中高常勤講師（国語）→中高教諭（国語））

柳田　皓祐（幼稚園教諭（任期付教員）→幼稚園教諭）

橋本　佳南（幼稚園教諭（任期付教員）→幼稚園教諭）

河南　玲奈（幼稚園教諭（任期付教員）→幼稚園教諭）

訃　報

矢野　一郎 様（中高聖書科教諭）2022.2.14

広瀬ハマコ記念基金のご案内

広瀬ハマコ先生は、校母ナニ・B・ゲーンス先生から直接薫陶を受けられました。その期待に応えられ、園長、学長、院長、理事長として36年間に渡り、本学院発展のために尽力されました。

1988年にご召天。その後私財は先生のご遺言により本学院に寄附され、「広瀬ハマコ記念奨学基金」の制度が生まれました。基金の運用益をもって次の事業を行うと定めています。

1,本学院の教壇に卒業生の人材を確保するための奨学金を支給する。

2,留学を希望する内外学生、生徒の学費を援助し国際化を促進する。

応募については次の通りです。みなさま奮ってご応募ください。

●応募条件／本学（高校、大学）卒業生で国内外の大学院在学者

●選　　考／本人申請により3月・9月に行います

お問い合わせ／法人事務局会計・管財課へ
TEL　082-228-0387

寄　附

5月20日受付分まで。
（順不同・敬称略）

広島女学院のために

100,000円　本廣　賢吾
30,000円　深江　弘子
10,000円　匿名

広島女学院大学のために

700,000円　株式会社アボアエンジニアリング
500,000円　吉田　佳世
333,067円　広島女学院大学国際教養学会

広島女学院大学の教育のために

3,000,000円　桐木　建始

中学高等学校応援

100,000円　佐々木　明

中高教育充実の為

10,000円　山地　佐和子

教育研究施設・設備の充実

100,000円　麻尾　順子

食堂運営補助費として

100,000円　広島女学院大学協力会

歴史資料館のために

33,000円　西原　眞理子

被爆バイオリン維持管理費協力金として

20,000円　次世代による東広島の原爆体験継承ネット

幼稚園の教育活動支援

50,000円　広島女学院ゲーンス幼稚園みぎわ会

卒園証書カバー代として

107,309円　広島女学院ゲーンス幼稚園みぎわ会

卒園記念として

216,000円　広島女学院ゲーンス幼稚園2021年度卒園生一同

中高教育充実の為

田中忠雄作「捧げ物をする東方の博士たち」
児玉　名月
児玉千代子

ヒノハラホール前広場整備として

ガーデン用品一式など
広島女学院大学協力会

ご寄附のお願い

本学院はクレジットカード決済に対応したインターネットからの寄付金募集を行っております。皆さまには引き続き格別のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

詳細は学校法人広島女学院ホームページ（https://www.hju.ac.jp/houjin/donation/）をご覧ください。

こちらからアクセスいただけます

お問い合わせ／会計・管財課　TEL:082-228-0387

2023年度 学生・生徒・園児募集要項　～キリスト教精神に基づいた教育を目指して～

大　学

募集人員

＜人文学部＞

国際英語学科	65名
日本文化学科	40名

＜人間生活学部＞

生活デザイン学科	65名
管理栄養学科	70名
児童教育学科	90名

大学院

募集人員（男女共学／社会人・外国人留学生可、定員は春季・秋季計）

＜言語文化研究科＞

日本言語文化専攻	修士課程	6名
英米言語文化専攻	修士課程	6名

＜人間生活学研究科＞

生活文化学専攻	修士課程	6名
生活科学専攻	修士課程	6名

●お問い合わせ先／広島女学院大学入試課
TEL：082-228-8365（直通）

詳しくはHPをご覧ください
https://www.hju.ac.jp/examination/

こちらからアクセスいただけます

中学校（予定）

募集人員　200名（5学級）

●お問い合わせ先／広島女学院中学高等学校
TEL：082-228-4131

詳しくはHPをご覧ください
https://www.hjs.ed.jp/candidate

こちらからアクセスいただけます

幼稚園

募集人員　3歳児　60名
4歳児　若干名

●お問い合わせ先／広島女学院ゲーンス幼稚園
TEL：082-228-6635

詳しくはHPをご覧ください
https://gaines-kg.jp/admissioninfo/

こちらからアクセスいただけます

法 人 概 要

以下の法人の情報がご覧いただけます。

・組織図・在籍学生等の数・教職員の状況
・事業計画・事業報告

https://www.hju.ac.jp/houjin/disclosure/

こちらからアクセスいただけます

第36回 クリスマスコンサート「メサイア」のお知らせ

広島女学院クリスマスコンサート「メサイア」を開催いたします。ご家族お誘い合わせでご来場ください。

●日時／2022年12月18日（日）
開場17時　開演17時30分
●会場／中学・高等学校ゲーンスホール

●広島女学院報はホームページからでもご覧いただけます。
バックナンバーはこちらから↓

https://www.hju.ac.jp/houjin/report/

こちらからアクセスいただけます

同窓会からのお知らせ

広島女学院平和祈念式

●日時／2022年8月6日（土）10:00～
●場所／広島女学院中学高等学校 ゲーンスホール

同窓会バザー（中高文化祭）

●日時／2022年11月3日（祝・木）
●場所／ゲーンスホール前テント（バザー）
同窓会館（Café アイリス）
献品は一年を通じ受け付けております。
同窓会事務局までご連絡ください。

バイブルクラス（聖書を学ぶ会）

●日時／毎月第4水曜日
10:30～11:30（8月・12月休会）
●場所／広島流川教会 小礼拝堂
●内容／「ルカによる福音書」を中心にした学びと交わり
●講師／広島流川教会 向井希夫牧師

お問い合わせ／同窓会事務局
TEL・FAX　082-221-1059
（月）～（金）　10：00～15：00

編集後記

このたび「広島女学院報」のデザインを新しくしました。この機会に改めて、故広瀬浜子元院長が女学院報を通じて果たしたいと願われた３つのこと（広島女学院報第14号（1958年2月15日発行）に掲載）を要約してご紹介します。①本学院に学び働く我らが一つの心で前進する一助になること、②本学院に関係する皆さまに女学院の姿を広く知っていただくこと、③益々内面的に充実した女学院スピリットの継承者となることに励み、国家社会の期待にそいたいこと、です。諸先輩方の名に恥じぬよう使命を全うしていく所存です。

（法人　内海　香苗）